

1. 授業評価の目的

学校教育法の改正により、大学・大学院において第三者評価が義務づけられ、専門職大学院においては5年に1回の第三者による認証評価を受けることが求められている。大学・大学院に対する第三者評価制度の導入は、自己点検・評価とともに教育研究水準の継続的な向上を目的としたものである。本学は「授業を通じた知的活性化」を全学的目標として掲げている。また、本経営戦略研究科は、教員の資質維持向上の方策のひとつとして、「授業内容及び方法の改善を図るための組織的な研修等の実施」に取り組んでいる。

本研究科では、授業内容および授業方法の改善を図るため、各クォーターの最終授業時に、学生による授業に関するアンケートと教員の担当科目自己評価を実施することとしている。授業評価の目的は、本研究科学生の実態や現状、学生の授業に対する認識・反応などをアンケートから探り、その結果を分析することによって、教育の現場に反映させる基礎資料を作成し、ビジネススクールおよびアカウンティングスクール教育の質的向上を図るとともに、ビジネススクールおよびアカウンティングスクール教育固有の教学上の諸課題を把握し、解明することにある。ここで注目したいのは、この学生アンケートと並んで、授業担当者自身の授業についての自己評価を学生の評価に合わせて実施していることである。これは、学生のアンケート結果と同時に実施されており、各教員は学生の授業評価結果を見ない段階で授業を振り返ってアンケートの記入を行った。このような試みは、学生の評価と対照することでより良い授業のヒントが得られるものと思われる。

本報告書は、本経営戦略研究科において2010年度春学期に開講した授業についての評価アンケート結果をまとめたものである。本報告書の構成は、エグゼクティブサマリー、2010年度春学期授業評価アンケート結果概要・分析、授業評価アンケート実施科目一覧、授業評価アンケートフォーム、授業別評定平均値一覧、アンケート結果（アンケート授業別集計結果）およびグループ・インタビュー調査結果からなっている。

授業評価に関する調査の企画、調査票の作成、および集計結果についての分析と本報告書の執筆については、本研究科教授会のもとに設置された「経営戦略研究科自己評価委員会授業評価・FD部会」のメンバーを中心として行われた。

調査の実施の方法等についての詳細は、以下の「調査実施方法及び期間等」のとおりである。今回の調査では、ほぼすべての授業科目および学生からの回答が得られた。アンケート実施に当たって、貴重な授業時間を割いていただいた各教員に感謝申し上げます。また、実際に回答を寄せていただいた学生諸君に深く謝意を表する。

2. 調査実施方法及び期間等

授業内容については、春学期（第1クォーター、第2クォーター、夏集中）・秋学期（第3クォーター、第4クォーター、冬集中）の授業終了時に受講生による授業評価を実施している。本報告の対象となる授業評価アンケートの実施方法や実施期間等については、以下のとおりである。

(1) 実施対象授業科目について

授業評価アンケートを実施した授業科目は、原則的に2010年度春学期に開講されたすべての科目である。本研究科全体でみた場合、アンケート実施対象科目は148科目である。その内訳は、経営戦略専攻が72科目（企業経営戦略コース42科目および国際経営コース30科目）、会計専門職専攻が76科目であった。

現行カリキュラムのもとで、授業科目はコア科目群、ベーシック科目群およびアドバンスト科目群に分類されており、当該授業科目の性格上、複数クラスを開講している科目もある。したがって、授業評価アンケートを実施対象クラスでみた場合、本研究科全体で176クラスであった。その内訳は、経営戦略専攻が89クラス（企業経営戦略コース55クラスおよび国際経営コース34クラス）、会計専門職専攻が87クラスである。

(2) 回答者、回答率等について

2010年度春学期の授業評価アンケート調査実施対象授業科目の履修登録者数は2,639人（延べ人数、以下同じ）で、実際にアンケート調査を回答した者は2,375人であり、アンケート調査の回答率は90%であった。

各専攻別の内訳は次のとおりである。経営戦略専攻の授業科目の履修登録者数は1,339人（企業経営戦略コース1,033人および国際経営コース306人）で、アンケート調査の回答者数は1,212人（企業経営戦略コース930人および国際経営コース282人）であった。回答率は90.5%（企業経営戦略コース90%および国際経営コース92.2%）である。また、会計専門職専攻の授業科目の履修登録者数は1,300人で、アンケート調査の回答者数は1,163人であり、その回答率は89.5%であった。

(3) 実施期間について

設置認可申請書に明記したように、授業評価は、春学期、秋学期の授業終了時に実施することになっている。したがって、2010年度春学期の授業評価アンケートの実施期間は、第1クォーター開講科目については、2010年5月21日（金）～5月27日（木）の最終授業時に実施した。補講を実施した科目については、最終授業時となる2010年5月28日（金）～6月3日（木）に実施した。

また、第2クォーター開講科目については、原則的に2010年7月16日（金）～7月22日（木）の最終授業時に実施した。補講を実施した科目については、最終授業時となる2010年7月23日（金）～7月29日（木）に実施した。また、夏季集中講義の各科目については2010年7月30日（金）～8月26日（木）の最終授業時にかけて実施された。

(4) アンケートの実施について

授業評価アンケートは、次の手順で実施した。

- ①授業評価アンケート時間は、最終授業時の授業終了前15分間とする。

- ②最終授業開始前に、授業評価アンケート用紙の入った封筒を、経営戦略研究科事務室にて担当者氏名と担当科目を確認のうえ受け取る。
- ③最終授業開始時に、「授業終了 15 分前に授業を終了し、授業評価アンケートを実施する」旨を受講者に伝える。
- ④授業終了 15 分前に、授業担当者は授業評価アンケート用紙を受講生に配布し、その場で直ちに回答するよう指示する。当該用紙の配布および回答の指示後、学生の自由な回答・記入を促進するため、授業担当者は教室から退室する。
- ⑤学生による授業評価である「授業に関するアンケート」は、質問項目数 14～15 で最高ポイントを 5 とし、それぞれ 5 段階評価のマークシートである。
- ⑥授業終了後、授業担当者は教室に戻って授業評価アンケート用紙を回収し、所定の封筒に入れて事務室に返却する。なお、受講者の自由な回答を促進するためにも、授業担当者は、授業評価アンケート用紙の回収時および回収後も当該アンケートは閲覧しない。
- ⑦「教員の担当科目自己評価表」については、事前に電子メールにて配布され、該当科目の成績報告書提出締切日までに経営戦略研究科事務室に提出（eメール可）した。
- ⑧「教員の担当科目自己評価表」は、次のような自由記述形式の 3 つの設問からなっている。
 1. 「この科目を担当するにあたって最も力を入れたことは何ですか。」
 2. 「この科目において、実施してよかった点と改善・工夫をした方がよい点は何ですか。クラスで実施した小テストやレポートの内容、発問に対する学生の答え、学生の教員への質問などから総合してお答えください。(1) 実施してよかった点、(2) 改善・工夫をした方がよい点」
 3. 「この科目を担当するにあたって当初予定していた目標や、授業で最も力を入れたことを踏まえて、ご自身の思っていた目標は達成されたと思いますか。」

(5) 集計

2010 年度春学期の授業評価アンケートについては、実施授業科目のクラスごとに集計を行った。この「授業評価アンケート集計結果」は、各授業クラスの履修登録者数、回答者数（学年別、所属専攻別、出身学部別の回答者数）、各設問の有効回答数、有効回答数の平均値および専攻平均値が示される。このうち、各設問の有効回答数の平均値と専攻平均値は、グラフによって視覚的にも明示している。

授業評価アンケートには、自由記述に関する設問が 3 問ある（「この授業で良かったところを具体的に書いてください」、「この授業で変えてほしいところがあれば、具体的に書いてください」および「この授業に関連して気づいたことがあれば書いてください」）。学生による授業評価アンケート実施にあたっての基本的スタンスとして踏襲してきたように、この自由記述の回答内容については公表対象とせず、授業内容および方法の改善のための資料と資する目的から、授業担当者に配付している。

(参考) 2009 年度春学期からの学生アンケート調査票及び分析方法の変更点

学生へのアンケート調査は、2009 年度春学期からアンケート設問項目の内容の一部変更を行っている。具体的な変更点は、以下の通りである。

- ①学生自身のことを尋ねる項目に「実務経験年数」および「公認会計士試験受験予定の有無」を加えた。
- ②企業経営戦略コースについては、前回の設問 10「この授業は将来の学習にとって有意義なものでしたか」という質問項目を外し、代わりに設問 14 で「この授業は仕事に役立ちましたか」を加えた。国際経営コースおよび会計専門職専攻については、設問 10 の代わりに設問 14 で「この授業は、今後の学習にとって有意義なものでしたか」を加えた。
- ③上記変更に伴って、前回の設問 11「この授業を受けるに当たって十分な予習や復習を行いましたか」を設問 10 に、前回の設問 12「この授業を受けるにあたって自分から文献を探すなど努力をしましたか」を設問 11 に変更した。
- ④前回の設問 13「この授業は全般的に満足いくものでしたか」、設問 14「この授業を受けることで分析能力や批判力がついたと思いますか」の順番を入れ替え、今回のアンケートではそれぞれ設問 13、設問 12 とした。
- ⑤国際経営コースでも、今回から調査票のフォーマットを変更し、経営戦略専攻企業経営戦略コース、および会計専門職専攻と共通の調査票を用いている（ただし質問項目 14「授業内容の就職後の実用性」は国際経営コースで独自に追加した質問項目である）。
- ⑥分析方法として、設問 1～12 までの各設問と設問 13「この授業は全般的に満足いくものでしたか」との間の相関係数を計算した。また、設問 13 と、設問 4「授業で指定された教科書や配布された資料は学習の助けとなりましたか」、設問 5「教員は学生が発言したり議論をすることに十分な配慮を払いましたか」、設問 10「この授業を受けるにあたって十分な予習や復習を行いましたか」、設問 11「この授業を受けるに当たって十分な予習や復習を行いましたか」との間でクロス集計を行った。

3. 経営戦略専攻企業経営戦略コース

A. 学生による授業評価アンケート

(1) 概観

学生による評価アンケートは、2009 年春のアンケートより、設問 1 から設問 9 が「教員の授業内容と方法」について、設問 10 と設問 11 が「学生自身の取り組み」について、設問 12 から設問 14 が「授業の満足度」についてと変更された。

<設問毎の平均点および設問 13 とその他の設問との相関係数>

番号	設問文	平均点	設問 13 との相関係数
1	授業内容は、シラバスで示された主題や目的に十分沿っていましたか。	4.59	0.609

2	教員は十分に準備をして授業に臨んでいましたか。	4.59	0.614
3	教員は、担当科目の授業を行うのに十分な専門知識を持っていましたか。	4.73	0.571
4	授業で指定された教科書や配布された資料は、学習の助けとなりましたか。	4.45	0.549
5	教員は学生が発言したり議論をすることに十分な配慮を払いましたか。	4.48	0.632
6	教員は、個々の学生の内容理解の水準を考慮していましたか。	4.23	0.660
7	この授業で与えられる課題の量は適正なものでしたか。	4.27	0.529
8	授業の内容と時間配分は適正なものでしたか。	4.28	0.591
9	教員は学生の質問に丁寧に答えていましたか。	4.57	0.621
10	この授業を受けるに当たって十分な予習や復習を行いましたか。	4.03	0.432
11	この授業を受けるに当たって自分から文献を探すなどの努力をしましたか。	3.88	0.383
12	この授業を受けることで分析能力や批判力がついたと思いますか。	4.15	0.671
13	*この授業は全般的に満足いくものでしたか。	4.39	
14	この授業は仕事に役立ちましたか。	4.24	0.652

今回のアンケート集計とクロス集計結果について分析すると、設問1から設問9の「教員の授業内容と方法」および設問12から設問14の「授業の満足度」に関しては、いずれの設問に対する回答の平均値も5段階評価で4.1を超えており、平均的な評価は高い水準を保っていると考えられる。

設問10と設問11の「学生自身の取り組み」についての質問項目に関しては、設問10「この授業を受けるに当たって十分な予習や復習を行いましたか」の平均値が4.03、設問11「この授業を受けるに当たって自分から文献を探すなどの努力をしましたか」の平均値が3.88と、「教員の授業内容と方法」や「授業の満足度」に関する設問の平均値よりは低くなっており、学生の積極的な予習や復習、自主的な文献探索を促す仕組みに関する工夫の余地があるように思われる。

(2) 設問13との相関

各項目と設問13「この授業は全般的に満足いくものでしたか」との相関については、設問12「この授業を受けることで分析能力や批判力がついたと思いますか」との相関係数が0.671と最も高くなっており、企業経営戦略コースの学生は分析能力や批判力が養われる科目に対して高い満足度を示すことが推察される。

また、設問14「この授業は仕事に役立ちましたか」との相関係数も0.652と高い相関を示しており、企業経営戦略コースの学生は仕事に役立つ講義に対して高い満足度を示す事が推察される。

設問1から設問9の「教員の授業内容と方法」の設問項目で学生の満足度との相関が高かった項目としては（カッコ内は相関係数）、設問6「教員は個々の学生の内容理解の水準を考慮して

いましたか」(0.660)、設問 5「教員は学生が発言したり議論をすることに十分な配慮を払いましたか」(0.632)、設問 9「教員は学生の質問に丁寧に答えていましたか」(0.621)、設問 2「教員は十分に準備をして授業に臨んでいましたか」(0.6314) 等であった。

学生の満足度を高めるためには、教員は十分に準備をして授業に臨むことはもとより、学生が発言したり議論したりすることを促すとともに、個々の学生の内容理解の水準にも目配りして質問に丁寧に答えることが求められよう。

これらの学生の満足度と相関が高い設問のうち、学生からの評価の平均点が比較的低かった設問として、設問 6「教員は個々の学生の内容理解の水準を考慮していたか」の平均点が 4.18 と、設問 1 から設問 9 の「教員の授業内容と方法」の設問項目中で一番低かった。多様な学歴や職歴を持ち、履修の自由度との兼ね合いで場合によっては必要となる科目の履修が済んでいないなど知識レベルが様々な学生に対して、個々の内容理解の水準を考慮して授業を進めるのは多くの困難が伴うが、それを乗り越えたとき、専門職大学院の顧客である学生の満足度が高まるのであろう。

(3) 科目別学生満足度

以下は、コア、ベーシック、アドバンストの各科目群毎に、科目名、履修者数、および、設問 12「この授業を受けることで分析能力や批判力がついたと思いますか」、設問 13「この授業は全体的に満足いくものでしたか」、設問 14「この授業は仕事に役立ちましたか」の各設問に対する科目毎の平均値を表にまとめたものである。

各科目に対する回答の平均値と履修者数との関係はどうなっているのか、平均値の差異が統計的に有意かどうか、講義時間帯がどのような影響を与えているのか等、議論の余地は多い。しかしながら、経営戦略研究科の顧客である学生の満足度が、以下のようになっていることを認識し、それぞれの科目を担当する教員が、一層の研鑽を積むことが求められていると言えよう。

①コア科目

科目名	履修者数	設問 12	設問 13	設問 14
企業倫理	37	4.18	4.65	4.50
英語コミュニケーション 2	22	3.80	4.47	3.88
英語コミュニケーション 1	19	3.88	4.41	4.12
経営学 1	27	4.00	4.32	4.20
会計学	28	4.12	4.24	4.08
統計学	23	3.86	4.14	3.86
経営学 2	20	3.56	3.38	3.75
経済学	34	3.39	3.21	3.34

②ベーシック科目

科目名	履修者数	設問12	設問13	設問14
テクノロジー・マネジメント	30	4.50	4.86	4.61
企業ファイナンス	15	4.38	4.69	3.85
財務諸表分析	10	4.33	4.67	4.56
上級英語コミュニケーション	5	4.40	4.60	4.60
マーケティング・マネジメント	56	4.32	4.58	4.45
ベンチャービジネス	20	4.06	4.50	4.17
情報システム	9	4.50	4.50	4.38
ベンチャービジネス	44	4.05	4.43	4.18
組織行動	46	4.03	4.38	4.19
経営戦略	32	4.39	4.35	4.32
統計分析論	32	4.05	4.35	4.15
ファイナンス	25	3.96	4.33	3.83
クリティカル・シンキング	55	4.12	4.29	4.18
産業組織論	9	4.00	4.11	3.78
会社法	21	3.82	4.06	4.19
人的資源開発	17	3.94	4.00	4.00
行動科学	17	4.25	4.00	3.88

③アドバンスト科目

科目名	履修者数	設問12	設問13	設問14
製品開発事例研究	4	4.33	5.00	5.00
経営戦略事例研究	30	4.52	4.89	4.82
企業経営史	13	4.67	4.83	4.33
流通システム	12	4.45	4.82	4.55
組織管理事例研究	42	4.40	4.80	4.75
マーケティング戦略	16	4.56	4.69	4.50
証券投資	14	4.50	4.67	4.58
金融工学	27	4.32	4.64	4.21
企業倫理事例研究	15	4.14	4.57	4.50
アントレプレナーシップ	19	4.44	4.56	4.19
ベンチャービジネス事例研究	7	4.17	4.50	4.50
マーケティング・コミュニケーション	36	4.14	4.45	4.31

e ビジネス事例研究	13	4.08	4.42	4.18
データマイニング	14	4.00	4.33	4.33
企業経営戦略特論A	19	3.71	4.18	4.12
企業経営戦略特論D	24	4.17	4.17	4.09
金融機関経営	12	3.67	3.67	3.67
I Tマネジメント	16	3.33	3.42	3.75

(4) 全般的評価についての時系列推移

以下では、質問内容別の全般的評価を見ていく。「教員の授業内容と方法」への評価に対する質問（設問1から設問9）についての平均は4.47（2009年春学期比プラス0.10ポイント）、「学生自身の取り組み」（「学習への事前準備」）に対する質問（設問10と設問11）についての平均は3.95（2009年春学期比プラス0.01ポイント）、「授業に対する満足度」に対する質問（設問12から14）についての平均は4.26（2009年春学期比プラス0.07ポイント）であった（以上、推移や差異を明確にするため、小数点第二位まで表記している）。

全体的に高い水準を保っており、比較可能な2009年春学期よりいずれの項目でも上昇している。ただし、教員や科目が一部異なること、学生の母集団の一部が卒業及び入学によって変化していること、変化の幅がいずれの項目でも0.1より小さく、統計的に有意かどうか不明なこと等に留意が必要である。

< 学生評価の推移 >

	2007年度 上段：春学期 下段：秋学期	2008年度 上段：春学期 下段：秋学期	2009年度 上段：春学期 下段：秋学期	2010年度 上段：春学期	2009年度 春学期と 2010年度 春学期比較
教員の授業内容と方法 (設問1～設問9)	4.27 4.43	4.44 4.52	4.37 4.45	4.47	+0.10
学生自身の取り組み (設問10～設問11)	3.75 3.85	3.91 4.01	3.94 4.02	3.95	+0.01
授業に対する満足度 (設問12～設問14)	4.17 4.30	4.27 4.36	4.19 4.28	4.26	+0.07

(5) 個別項目についての推移

全般的な評価が2009年の春学期と比較するといずれも微増であったように、個別で見ても、9項目中7項目で評価にわずかではあるがプラスの変化が見られた。プラスに変化した項目は、設問1「授業内容はシラバスで示された主題や目的に十分沿っていましたか」、設問4「授業で指定された教科書や配布された資料は、学習の助けとなりましたか」、設問5「教員は学生が発言し

たり議論をすることに十分な配慮を払いましたか」、設問6「教員は個々の学生の内容理解の水準を考慮していましたか」、設問7「この授業で与えられる課題の量は適正なものでしたか」、設問8「授業の内容と時間配分は適正なものでしたか」、設問9「教員は学生の質問に丁寧に答えましたか」である。

ただし、これらの差は変化の幅も小さく、統計的に有意かどうか不明である。学生の一部が卒業及び入学によって変化していることについても留意が必要である。

各項目の平均のうち、設問2「教員は十分に準備して授業にのぞんでいましたか」、設問3「教員は担当科目の授業を行うのに十分な専門知識を持っていましたか」は小数以下一桁レベルではプラスマイナスゼロで変化はなかった。教員の授業に対する姿勢に関しては水準が高いレベルで変化がない結果を示している。

<項目別の学生評価推移①>

	2007年度 上段：春学期 下段：秋学期	2008年度 上段：春学期 下段：秋学期	2009年度 上段：春学期 下段：秋学期	2010年度 上段：春学期	2009年度 春学期と 2010年度 春学期比較
設問1	4.4 4.6	4.6 4.6	4.5 4.6	4.6	+0.1
設問2	4.4 4.5	4.6 4.6	4.6 4.6	4.6	±0.0
設問3	4.6 4.6	4.7 4.8	4.7 4.7	4.7	±0.0
設問4	4.2 4.4	4.4 4.5	4.3 4.4	4.5	+0.2
設問5	4.3 4.4	4.4 4.5	4.4 4.4	4.5	+0.1
設問6	4.0 4.2	4.2 4.3	4.1 4.2	4.2	+0.1
設問7	4.1 4.3	4.3 4.3	4.2 4.3	4.3	+0.1
設問8	4.0 4.3	4.2 4.3	4.1 4.3	4.3	+0.2
設問9	4.4 4.5	4.5 4.6	4.5 4.5	4.6	+0.1

「学生側での予習・復習」(設問10)は、4.0ポイントで2009年度春学期から変化はなかった。

「授業を受けるに当たっての文献探査」（設問 11）は 3.9 で、これも 2009 年度春学期から変化はなかった。

<項目別の学生評価推移②>

	2007 年度 上段：春学期 下段：秋学期	2008 年度 上段：春学期 下段：秋学期	2009 年度 上段：春学期 下段：秋学期	2010 年度 上段：春学期	2009 年度 春学期と 2009 年度 秋学期比較
設問 10	3.8	4.0	4.0	4.0	±0.0
	3.9	4.0	4.0		
設問 11	3.7	3.9	3.9	3.9	±0.0
	3.8	4.0	4.0		

「この授業を受けることで分析能力や批判力がついたと思いますか」（設問 12）は 4.1 で、2009 年度春学期から変化はなかった。「授業が全般的に満足いくものであったか」（設問 13）は 4.3 で、これも 2009 年度春学期から変化はなかった。「この授業は仕事に役立ちましたか？」（設問 14）についても、は 4.2 で 2009 年度春学期から変化はなかった。

<項目別の学生評価推移③>

	2007 年度 上段：春学期 下段：秋学期	2008 年度 上段：春学期 下段：秋学期	2009 年度 上段：春学期 下段：秋学期	2010 年度 上段：春学期 下段：秋学期	2009 年度 春学期と 2009 年度 秋学期比較
設問 12	3.9	4.2	4.1	4.1	±0.0
	4.2	4.3	4.2	4.2	
設問 13	4.2	4.3	4.3	4.3	±0.0
	4.4	4.4	4.4	4.4	
設問 14			4.2	4.2	±0.0
			4.3	4.3	

B. 教員による担当科目自己評価

教員による授業アンケートは、各担当教員に「教員担当科目自己評価表」が配られ、教員自身が「科目を担当するに当たって最も力を入れたこと」、「実施して良かった点と改善・工夫をした方がよい点」、「当初予定していた目標は達成されたか」の 3 つの項目に関して記述式で回答したものであり、学生評価のような定量的な評価ではない。

以下では、コア、ベーシック、アドバンスト、課題研究の 4 つの科目群に分けて、各質問項目

について分析・考察する。教科を教えるにあたっての教員の様々な工夫や努力を紹介し、他の教員の参考とするためにもできるだけコメントを多く掲載した。

(1) コア科目群：

「最も力を入れたこと」に関しては、「必ずしも履修意欲が高くない学生に対して、考える機会を与え、科目の積極的な意義を理解してもらう」、「基礎的な概念や理論についての理解」、「最新の教科書の使用」、「新聞記事、雑誌記事などの活用」、

「実施してよかった点」に関しては、「宗教総主事による建学精神、キリスト教主義についての講話」、「ゲストスピーカーによる講義」、「受講生の投票による最優秀グループワーク賞の選定」、「自社についての分析・プレゼン」、「全員に発表してもらう」、「小テストの実施」、「毎回の宿題」

「改善・工夫をしたほうが良い点」に関しては、「学生の発言機会の増大」等、授業にいかにして学生の主体的な関与を促すかが課題となっている。また、ある科目では「できる人とできない人の差が大きいので、その溝を埋める工夫が必要」との指摘があった。

上述のような課題はあるものの、「この科目を担当するにあたって、当初予定していた目標や自身の思っていた目標は達成されたか」に関しては、概ね達成されたという意見が多かった。

(2) ベーシック科目群：

概観すると、ベーシック科目群もコア科目群と同様、基本的な理論とその現場への応用、学生の考える力と理解力をつけることを目的にした授業を行うことに力を注いでいる様子がうかがえる。

「最も力を入れたこと」に関しては、「ベーシックな理論や分析フレームワークを実際のケースに応用して分析する力を養う」、「レクチャーとグループディスカッションとケース負荷のバランス」等が挙げられた。授業終了後にネットワーキングを心掛けている講義も見られた。

「実施してよかった点」に関しては、「講義したフレームワークを使って自社の分析をする」、「ケースのグループ発表」、「ケースレポートの毎回の提出」、「新作ケースの使用」、「外部の講師を招いた講演会」等の内容面での充実に加え、「数多くの参考文献を著作権にも配慮しつつ、ダウンロード可能な状態にして配布する」、「役に立つウェブサイトの紹介」、「講義の時間配分の改善」等、各教員が工夫を凝らしていることがわかる。

「改善・工夫をしたほうが良い点」に関しては「基礎学力不足の受講生に対する、懇切丁寧な指導」、「最新の話題を取り入れる」、「レクチャーが続くと受講生の集中力がとぎれがちになるので、ケースや演習方式を導入」した方が良いという意見があった。「授業開始時に小テストを実施する等して、事前に学生の力量を把握するように努めたい」との意見があった。また、「他教科との連携」といった事項を挙げる教員がいた。

「この科目を担当するにあたって、当初予定していた目標や、授業で最も力を入れたことを踏まえて、自身の思っていた目標は達成されたか」に関しては、概ね達成されたという意見が多かった

(3) アドバンスト科目群：

アドバンスト科目に関しては、専門内容の深い理解とケースを使用した実践での応用を中心にした授業が多くみられた。

「最も力を入れたこと」に関しては、米国のビジネススクールと同程度の内容をカバーすることを目指した科目があった。教科書・参考書から学ぶ知識と具体的な事象とを結びつけることに力を注いだ講義もあった。

「実施してよかった点」に関しては、レポートを課し、それに対して教員およびゲストからコメントをフィードバックするようにした講義があった。グループ研究やケースレポートを実施した講義もあった。実データを用いた解析や発表会を行う講義もあった。演習を多用した講義もあった。

「改善・工夫をしたほうが良い点」に関しては、グループディスカッションを増やすことを挙げる者がいた。また、インターネットやクロスメディアのケースをもっと増やす必要があると感じる教員もいた。エクセルを用いて演習の密度を向上させることを検討する教員もいた。

「この科目を担当するにあたって、当初予定していた目標や、授業で最も力を入れたことを踏まえて、自身の思っていた目標は達成されたか」に関しては、概ね達成されたという意見が多かったが、「もっと積極的に討論を刺激していく工夫が必要であった」と感じる教員もいた。

(4) 課題研究科目群：

課題研究の科目群に関しては、学生自ら発想し、テーマの設定、深くテーマの追及を行って研究を纏めていくプロセスを導いていく授業を目指したものが多かった。

「最も力を入れたこと」に関しては、「データなど根拠を示して説得的な議論を展開」し、「課題研究のプロセスで得た体験が卒業後も何らかの役に立つよう指導することを心掛けた」ことを目指して講義が行われていた。

「実施してよかった点」に関しては、課題研究基礎において「統計データを用意して、具体的に統計手法の適用例を紹介した」講義があった。講義の運営面では、「3月からクラスを開始して、オリエンテーションやテーマ設定を4月はじめまでに終えることができた」講義や「OB・OGとの合同授業、ゼミ合宿や交流会を実施した」講義もあった。達成度についても、論文投稿を目指した講義もあった。

「改善・工夫をしたほうが良い点」に関しては、「文献の探索について事前に徹底することが必要」といった研究手法の指導法に関するものや、個々の学生の発表時間の平準化や研究の進捗管理など時間マネジメント面での課題も指摘された。「取り組み姿勢、分析能力等のばらつきが学生間にあり、課題研究を週複数回開催すること等の検討が必要」との指摘があった。

「この科目を担当するにあたって・・・自身の思っていた目標は達成されたか」という問いに関しては、概ね達成されたという意見が多かったが、一部に「課題研究が始まってすぐにフィードワークに取り組みせたいが、問題意識の低い履修生の場合、論文提出の1ヶ月前になっても

取り組めない人がいる。課題研究基礎の段階で、しっかりした指導を行い、連続性を重視するような対策を講じたい」という意見や、「論文のできあがりという点で、目標を十分に達成できたとは思っていない」という意見もあった。

4. 経営戦略専攻国際経営コース

A. 学生による授業評価アンケート

2009 年度春学期から調査票のフォーマットを変更し、国際経営コースでも、経営戦略専攻企業経営戦略コース、および会計専門職専攻と共通の調査票を用いてきた（ただし質問項目 14「授業内容の就職後の実用性」は国際経営コースで独自に追加した質問項目である）。新しい調査票の導入から一年が経過し、今期から前回調査との比較が可能になった（表 1）。

表 1：2010 年度春学期授業評価結果（前年同期との比較、各回答者の平均値を小数点第二位で四捨五入）

科目群	年度	Q1	Q2	Q3	Q4	Q5	Q6	Q7	Q8	Q9	Q10	Q11	Q12	Q13	Q14
コア	2009	4.6	4.6	4.7	4.4	4.4	4.4	4.5	4.3	4.5	4.3	4.0	4.3	4.5	4.6
	2010	4.3	4.2	4.4	4.0	4.0	3.9	4.0	4.1	4.3	3.8	3.6	3.8	4.0	4.1
ベーシック	2009	4.7	4.6	4.6	4.4	4.7	4.5	4.4	4.4	4.4	4.4	4.3	4.3	4.6	4.6
	2010	4.5	4.5	4.6	4.2	4.4	4.3	3.9	4.3	4.3	4.1	3.9	4.1	4.2	4.4
アドバンス	2009	4.5	4.7	4.7	4.3	4.6	4.6	4.4	4.4	4.6	4.1	4.1	4.4	4.5	4.6
	2010	4.6	4.7	4.6	4.3	4.5	4.4	4.2	4.2	4.4	4.0	4.1	4.3	4.4	4.6
総計	2009	4.6	4.6	4.7	4.3	4.6	4.5	4.4	4.4	4.6	4.2	4.1	4.3	4.5	4.6
	2010	4.5	4.5	4.5	4.1	4.3	4.2	4.1	4.2	4.4	3.9	3.9	4.1	4.2	4.4
低下幅		0.1	0.2*	0.1	0.2*	0.3**	0.3***	0.4***	0.2	0.2*	0.3***	0.3**	0.3	0.3**	0.2*

* $p < 0.05$

** $p < 0.01$

*** $p < 0.001$

学生による授業評価結果の水準自体は、概ね良好である。多くの質問項目の平均値が「Strongly agree」、「Agree」の中間の値となっている。ただし、「十分な予習・復習の実施」（質問項目 10）、「文献検索などの主体的な努力」（質問項目 11）では平均値が「Agree」の水準を割り込む結果であった。

一方で、前年同期からの変化に目を転じると、表 1 から一見して明らかなように、国際経営コースの授業に対する学生の評価は全質問項目で低下している。特に「発言・議論への配慮」（質問項目 5）、「内容理解度の考慮」（質問項目 6）、「課題の量」（質問項目 7）、「十分な予習・復習の実施」（質問項目 10）、「文献検索などの主体的な努力」（質問項目 11）、「分析能力・批判能力の習得」（質問項目 12）、「この授業を他の学生に推薦するか否か」（質問項目 13）などで顕著な低下が見られた。教員側のパフォーマンスに対する評価（質問項目 5～7）だけではなく、学生

自身の自己評価（質問項目 10～13）も低下する結果となっている。科目群別にみると、コア科目での評価の低下が著しかった。

こうした状況の背景は主に一年生の増加に伴うクラス規模の拡大であると考えられる。表 2 に示したように、一年生の評価は総じて二年生よりも低い傾向がうかがえるが、特にコア科目で顕著である。2009 年度春学期と 2010 年度春学期とで、一年生の授業評価結果を比較した表 3 からは、こうした傾向が 2010 年度に一層強まったことが読み取れる。コア科目の授業で提供される内容が劣化した可能性も完全には否定できないが、後述する教員の自己評価も併せて考えると、一年生の大幅な増加に伴う弊害と考えるほうがより自然なものと思われる。たとえば、一年生の増加により、二年生の発言機会が相対的に減少したり、より基礎的な内容の確認に時間を割いた結果としてシラバスで予定していた教科内容をカバーできなかつたり、といった事態が報告されているのである。こうした事態が全体として授業評価結果が悪化する結果につながったものと考えられる。

表 2： 2010 年度春学期授業評価結果（学年別の比較、各回答者の平均値を小数点第二位で四捨五入）

科目群	学年	Q1	Q2	Q3	Q4	Q5	Q6	Q7	Q8	Q9	Q10	Q11	Q12	Q13	Q14
コア	1	4.3	4.2	4.4	3.9	4.0	3.9	4.0	4.1	4.3	3.8	3.6	3.8	3.9	4.1
	2	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	4.0	4.0	5.0	5.0	5.0	4.0	5.0	5.0	5.0
ベーシック	1	4.5	4.5	4.6	4.2	4.3	4.2	3.9	4.2	4.2	4.0	3.8	4.0	4.1	4.4
	2	4.6	4.7	4.6	4.4	4.7	4.6	4.1	4.8	4.7	4.3	4.6	4.3	4.6	4.4
アドバンスト	1	4.5	4.6	4.5	4.0	4.5	4.3	4.0	4.1	4.3	3.7	4.0	4.2	4.3	4.4
	2	4.7	4.8	4.7	4.5	4.6	4.5	4.4	4.4	4.5	4.2	4.3	4.3	4.5	4.7
総計	1	4.4	4.4	4.5	4.0	4.2	4.1	4.0	4.1	4.3	3.8	3.7	4.0	4.1	4.3
	2	4.7	4.8	4.7	4.5	4.6	4.5	4.3	4.5	4.5	4.2	4.3	4.3	4.6	4.7

表 3： 2010 年度春学期授業評価結果（一年生の評価、前年同期との比較、各回答者の平均値を小数点第二位で四捨五入）

科目群	年度	Q1	Q2	Q3	Q4	Q5	Q6	Q7	Q8	Q9	Q10	Q11	Q12	Q13	Q14
コア	2009	4.6	4.6	4.7	4.4	4.4	4.3	4.5	4.3	4.5	4.3	4.0	4.2	4.5	4.6
	2010	4.3	4.2	4.4	3.9	4.0	3.9	4.0	4.1	4.3	3.8	3.6	3.8	3.9	4.1
ベーシック	2009	4.7	4.6	4.5	4.3	4.6	4.4	4.2	4.3	4.3	4.3	4.1	4.1	4.5	4.5
	2010	4.5	4.5	4.6	4.2	4.3	4.2	3.9	4.2	4.2	4.0	3.8	4.0	4.1	4.4
アドバンスト	2009	4.6	4.6	4.6	4.3	4.5	4.5	4.3	4.3	4.6	4.0	4.0	4.4	4.4	4.6
	2010	4.5	4.6	4.5	4.0	4.5	4.3	4.0	4.1	4.3	3.7	4.0	4.2	4.3	4.4

個々のクラスに対する授業評価結果（表 4）を見ても、コア科目に 2～3 点台の評価となった科目が集中している。継続的な課題である科目ごとのバラつきの解消と併せて、学生数の増加に見合った授業運営の改善が必要な段階に入っているといえる。

表 4: 科目ごとの平均値（問 12、13 の各回答者の平均値を小数点第二位で四捨五入）

科目群	科目名	Q12	Q13
コア	Accounting for Decision Making	3.8	3.9
	Business Economics	2.9	2.9
	Business Ethics	4.5	4.6
	English Communication	3.7	4.2
	Management	4.3	4.5
	Statistics	3.5	3.4
コア 集計		3.8	4.0
ベーシック	Advanced English for Business Studies	4.1	4.2
	Corporate Finance	4.3	4.4
	International Management	4.3	4.3
	Marketing Management	4.0	4.1
	Principles of Finance	3.5	3.6
ベーシック 集計		4.1	4.2
アドバンスト	Advanced Topics in Business A	4.5	4.8
	Advanced Topics in Business B	5.0	4.7
	Advanced Topics in Business C	4.5	4.6
	Advanced Topics in Business E	4.3	4.8
	Brand Management	3.7	3.9
	Capital Markets	3.8	3.8
	Cross-Cultural Management	4.5	4.7
	Financial Institutions Management	5.0	5.0
	Group Research Project	4.8	4.8
	Human Resource Management	4.0	4.4
	Individual Research	4.8	4.8
	International Marketing Practice	4.4	4.6
	Japanese Business	4.0	4.2
	Marketing Case Analysis	4.0	4.5
	Marketing Communication	5.0	5.0
	Marketing Research	4.0	3.8
Organizational Behavior	4.2	4.7	

Practitioner Perspectives on Management	4.5	4.5
Product Innovation	4.8	4.8
アドバンスト 集計	4.3	4.4
総計	4.1	4.2

B. 担当教員による授業評価アンケート

クラスサイズの急激な拡大による弊害は、担当教員による授業評価アンケートでも指摘されている。具体的には、学生当たりの発言機会が減少した、学生の理解レベルのバラツキが拡大したため授業レベルの設定が難しくなった、一年生の比率が高まったため（ベーシック、アドバンストの科目群でも）基礎的な内容もカバーする必要性が増えた、などである。その一方で、クラスサイズの拡大に伴う発言内容の多様化を積極的に評価する声もあった。

「実施してよかった点」としては、ビデオ教材の活用や、小テストの実施、学生にショート・レクチャーを課す（教科書の内容をサマリー）、などの試みが挙げられた。

一方で、「改善・工夫をした方がよい点」としては、引き続き、科目間のシークエンスの確立が挙げられている（Corporate Finance を履修する前に、確実に Principles of Finance を履修させるなど）。上記の一年生比率の高まりに起因する課題の一部は、基礎的な内容をマスターしていない一年生がベーシック、アドバンストの科目を履修してしまうことによって増幅されている側面もある。履修指導の徹底などを通じて、解決を図るべき課題である。日本の企業に関するケース素材の開発も継続課題として指摘されており、科目間のシークエンスの確立と併せて、国際経営コース全体の課題として組織的な取り組みが必要であるものと考えられる。

5. 会計専門職専攻

A. 学生による授業評価

(1) 概要

学生による授業評価アンケートは、設問1から設問9が「教員の授業内容と方法」について、設問10および設問11が「学生自身の取り組み」について、設問12から設問14が「授業の満足度」について問うものである。

設問毎の平均点および設問13とその他の設問との相関係数（四捨五入）は、次のとおりである。

<設問毎の平均点と設問13とその他の設問との相関係数>

番号	設問文	平均点	問13との相関係数
1	授業内容は、シラバスで示された主題や目的に十分沿っていましたか。	4.6	0.54
2	教員は十分に準備をして授業に臨んでいましたか。	4.6	0.53
3	教員は、担当科目の授業を行うのに十分な専門知識を持っていましたか。	4.8	0.49

4	授業で指定された教科書や配布された資料は、学習の助けとなりましたか。	4.5	0.56
5	教員は学生が発言したり議論をすることに十分な配慮を払いましたか。	4.2	0.41
6	教員は、個々の学生の内容理解の水準を考慮していましたか。	4.1	0.62
7	この授業で与えられる課題の量は適正なものでしたか。	4.3	0.45
8	授業の内容と時間配分は適正なものでしたか。	4.3	0.62
9	教員は学生の質問に丁寧に答えていましたか。	4.5	0.49
10	この授業を受けるに当たって十分な予習や復習を行いましたか。	3.9	0.38
11	この授業を受けるに当たって自分から文献を探すなどの努力をしましたか。	3.8	0.35
12	この授業を受けることで分析能力や批判力がついたと思いますか。	4.1	0.56
13	この授業は全般的に満足のいくものでしたか。	4.4	
14	この授業は、今後の学習にとって有意義なものでしたか。	4.6	0.84

(2) 全体評価～専攻平均値～

専攻平均値は、すべての設問の評点を延べ回答人数で平均したもの（総平均値、四捨五入）である。2005年度春学期から2010年度春学期にかけての専攻平均値の推移は、次のとおりである。

<すべての設問に対する総平均値の推移>

	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度
春学期	3.9	4.2	4.3	4.4	4.3
秋学期	4.2	4.3	4.5	4.5	4.5
	2010年度				
春学期	4.3				
秋学期	—				

開設以来2007年度秋学期まで上昇し続け、それ以来2008年度秋学期まで4.4から4.5と高い値を記録していた。また、春学期と秋学期を比較すると、2009年度まで、春学期の方の評点が低い。2010年度春学期は4.3と依然として高い数値であるものの、2009年度春学期と同様に、前学期から0.2ポイント低下している。秋学期よりも春学期の方の入学者が多く、新入生が大学院のカリキュラムなどに不慣れな点が現れている可能性が考えられるが、今後の傾向に注視する必要がある。

(3) 個別評価

① 教員の授業内容と方法

設問1から設問4、および設問9については、設問3を除き、前学期に比して評点が低下しているものの、4.5以上という高い評価を得ている。したがって、担当科目についての資質を有す

る教員が、シラバスに沿って、資料の作成等を含む十分な準備をして授業を実践しているとの評価を得ていると言えるであろう。

<設問1から設問10の平均値>

	設問 1	設問 2	設問 3	設問 4	設問 5	設問 6	設問 7	設問 8	設問 9	設問 10
専攻全体										
2009年度秋学期	4.7	4.7	4.8	4.6	4.5	4.4	4.5	4.5	4.6	4.1
2010年度春学期	4.6	4.6	4.8	4.5	4.2	4.1	4.3	4.3	4.5	3.9
コア科目										
2009年度秋学期	4.7	4.7	4.8	4.6	4.5	4.3	4.4	4.4	4.6	4.1
2010年度春学期	4.5	4.5	4.7	4.4	3.9	3.9	4.1	4.1	4.3	3.8
ベーシック科目										
2009年度秋学期	4.7	4.7	4.8	4.6	4.5	4.4	4.5	4.6	4.6	4.1
2010年度春学期	4.7	4.7	4.8	4.7	4.5	4.3	4.4	4.5	4.6	4.0
アドバンスト科目										
2009年度秋学期	4.7	4.7	4.8	4.6	4.5	4.4	4.5	4.5	4.7	4.0
2010年度春学期	4.7	4.7	4.9	4.7	4.6	4.5	4.5	4.6	4.7	4.2

<設問11から設問14の平均値>

	設問 11	設問 12	設問 13	設問 14
専攻全体				
2009年度秋学期	4.0	4.3	4.5	4.6
2010年度春学期	3.8	4.1	4.4	4.5
コア科目				
2009年度秋学期	3.9	4.2	4.5	4.6
2010年度春学期	3.7	3.9	4.3	4.5
ベーシック科目				
2009年度秋学期	4.1	4.3	4.6	4.7
2010年度春学期	3.9	4.2	4.6	4.7
アドバンスト科目				
2009年度秋学期	4.0	4.3	4.5	4.6
2010年度春学期	4.1	4.4	4.6	4.6

設問5と設問6は、専攻全体で前学期に比して0.3ポイント低下し、各々、4.2、4.1という

上に比べて低いポイントとなっている。科目群別にみた場合、コア科目において、設問5は0.6ポイント、設問6は0.4ポイントも低下しており、ともに3.9となっている。コア科目は、導入教育に該当する科目が多く、講義形式で実施されることから、設問5の評点は低くなる傾向がある。設問6は、専攻全体および科目群別にみた場合でも最も評点が低いことから、入学者の多様性、入学時点での会計知識の水準に変化が生じている可能性を示唆する。

設問7と設問8は、専攻全体で0.2ポイント低下し、各々、4.3ポイントとなっている。科目群でみた場合、コア科目において0.3ポイント低下し、4.1となっている。コア科目の受講時は導入教育段階にあることから、授業内容および課題への取り組みにとりわけ負荷を感じていることが考えられる。また、昨今の企業会計基準の新設・改訂が、企業会計コースの授業内容の増加をもたらしている面もあろう。

以上、専攻全体に関する設問1から設問4の評点は、学生が教員の授業内容の意義について理解していることを示唆し、会計専門職専攻開設以来の教育面での一定の成果といえることができるであろう。ただし、設問5から設問8の評点は専攻全体で0.2ポイント以上低下し、それ以上にコア科目では低下していることから、学生の理解度を高める工夫が問われており、授業内容の水準(質)と量について改めて見直すとともに、効果的かつ効率的な方法で授業を実践されることを期待した。

③ 学生自身の取り組み

「学生自身の取り組み」を問う設問10および設問11の評点の推移は、次のとおりであり、春学期と秋学期を比較すると、2009年度まで、春学期の方の評点が低い傾向にある。

2010年度春学期に関しては、設問10は前学期の4.1から3.9に、設問11は前学期の4.0から3.8に低下し、2009年度春学期の水準に戻っている。

<学生自身の取り組みに係る評点の推移>

	2005年度 春学期	2005年度 秋学期	2006年度 春学期	2006年度 秋学期	2007年度 春学期	2007年度 秋学期	2008年度 春学期	2008年度 秋学期
設問10	3.6	3.7	3.7	3.8	3.9	4.0	3.9	4.1
設問11	3.4	3.5	3.6	3.7	3.7	3.9	3.8	3.9
	2009年度 春学期	2009年度 秋学期	2010年度 春学期					
設問10	3.9	4.1	3.9					
設問11	3.8	4.0	3.8					

この2つの設問は、専攻全体の中で最も評点の低い2つである点に注意しなければならない。設問10に関しては、まず、後述の教員の担当科目自己評価表と合わせて検証し、改善策を検討、実施することが考えられる。特に、コア科目に関しては、設問6から設問8の評点が低いことか

ら、予習、復習の大切さを改めて喚起する必要がある。ただし、この場合、授業で与える課題の量とのバランスに留意することも必要であろう。

設問 11 については、設問 4 とも関係するが、教科書・配布資料に加えて、教員が参考文献などを授業の中で紹介したり、レポートや課題を課す際に文献にあたる指導をしたりすることなども考慮すべきであると考えられる。

④ 授業の満足度

設問 12、設問 13 および設問 14 は、授業に対する評価の結論的指標となるものである。今回はいずれも前学期よりも低下しており、設問 12 では 0.2 ポイントの低下、設問 13 と設問 14 では 0.1 ポイントの低下となっている。設問 13 と設問 14 は、総平均値以上のポイントであるが、設問 12 はそれよりも低いものとなっている。

設問 12 については、コア科目の評点が 3.9 と低いものとなっている。前述のとおり、コア科目は分析能力や批判力の基礎を涵養する導入教育であることから、やむを得ない部分もあろうかと思われるが、担当教員の授業方法のさらなる改善を期待したい。後述の教員の担当科目自己評価表と合わせて検討するとともに、FD 活動において取り上げるべき課題の 1 つと言えよう。

学生の満足度を問う設問 13 は、設問 14 との相関が 0.84 と最も高く、これに次いで設問 6 と設問 8 との相関が 0.62 と高い。後者からは、授業内容の水準と量のバランスを取り、授業内容の理解度を高めることの重要性を改めて示唆するものであろう。

「授業の満足度」への取り組みは継続的なカイゼン活動である。授業内容（水準（質）と量）と方法はもとより、設問 10 と設問 11 の評点が低いことを勘案すると、「学生自身の取り組み」に対する教員の対応も重要な要素である点に留意すべきである。

B. 担当教員による担当科目自己評価表

(1) 概要

教員の担当科目自己評価表においては、①この科目を担当するにあたって最も力を入れたことは何ですか、②この科目において、実施してよかった点と改善・工夫をした方がよい点は何ですか、③この科目を担当するにあたって当初予定していた目標や、授業で最も力を入れたことを踏まえて、ご自身の思っていた目標は達成されたと思いますか、という設問について、担当教員が回答するものである。

(2) 各質問項目の回答傾向

ここでは科目区分毎の回答傾向を提示しているが、公認会計士養成プログラム、企業経理財務担当者養成プログラム、自治体会計・行政経営専門職養成プログラムかどうかで、その達成目標は自ずと異なることから、下記はこのような点も反映された回答といえる。

① 「この科目を担当するにあたって最も力を入れたこと」を問う設問 1 に関して、コア科目については、「基礎的な知識の修得」・「体系的に講義」・「全体像の理解」・「概念と背景を

理解してもらう」・「制度、理論、実務の何れをテーマとしているかを明らかにした上で、講義を進める」・「重要である箇所を詳しく解説」・「トピックについて詳細に解説」など基礎的知識の体系的・全体的、あるいはメリハリをつけた講義などに関する回答、あるいは「講義と計算面での演習とのバランスを図る」・「練習問題を解く時間の確保」・「計算面での練習」・「計算能力の向上」・「計算方法の解説」といった計算能力の向上を目的とする回答が複数みられた。

また、「具体例を紹介しながら理解を容易ならしめる」・「具体的な例示(実例)を含める」・「実際のケースを題材にする」・「実務的な話をできるだけ織り交ぜて説明」といった実例、実務などの話を講義に入れて分かりやすい講義をするという回答、「積極的な参加を求める」・「学生全員が参加し理解度を高める」といった学生が主体的に参加することを求める回答、「学生が考える」・「考える会計論」・「自分の考えを展開できる力をつける」・「考える力を体得させる」など学生自身が考えることとした回答も複数見られた。その他では、「有用性の理解」・「原則規定と例外規定とを正確に理解」・「類似規定と相違点とを理解」といった回答もあった。

ベーシック科目については、具体的なテーマや講義の進め方を挙げた回答が多かった。例えば、「(その科目の特定のテーマ)を習得」・「(その科目の特定のテーマ)を具体的に理解」・「(その科目の特定のテーマ)を実践的に理解」、「(その科目の特定のテーマ)への理解を深める」といった当該科目の主要テーマを習得させるという回答が圧倒的に多かった。その他には、「網羅的な解説」・「ホットなテーマをとりあげて解説」・「(特定のテーマについて)なぜ必要か、どう変化しているかを理解させる」・「体系的知識理解」・「わかりやすく講義」といった講義の進め方に関する回答も複数あった。また、「考える力をつける」・「深く考える力の養成」・「物の見方の涵養」といった考え方やもの見方に関する回答も複数あった。その他に、「論述能力の涵養」といった回答もあった。

アドバンスト科目については、コア、ベーシック科目と比べて、回答が多種多様に分かれているのが特徴的であるが、「深く考えさせる」・「学生が考える」・「考える力を体得させる」・「自分の考えを展開することができる力をつける」といった学生の考える力を涵養させるという回答が一番多かった。その次に多かったのが、「実務的な知識を伝える」・「具体例を紹介しながら理解を容易ならしめる」・「トピックに関する資料の提示」・「実例を紹介して理解を高める」・「実務的な話を織り交ぜる」・「最近話題になった事例を豊富に取り入れる」といった実務的な知識、具体例などを講義に入れるという回答が多かった。

また、「積極的な参加を学生に求める」・「学生全員が参加し理解度を高める」・「コミュニケーションによる相互理解の発展」・「インタラクティブな講義」といった学生の参加を求めることに関する回答も複数あった。その他には、「体系的に講義」・「重要箇所を詳しく講義」・「理論と計算のバランスに配慮した講義」・「練習問題を解くことで理解を深める」といった講義の進め方に関する回答もあった。さらには、「リーダーシップ、コミュニケーション、意思決定能力を高める」・「有用性を理解させる」・「概念と背景を理解」・「実務家と

して必要な『視点』と手法を習得」・「原則規定と例外規定の内容の正確な理解」・「条文間の関連性および類似規定の相違点を理解する」などの回答もあった。

- ② 「担当科目について実施してよかった点」を問う設問 2-1 に関して、コア科目については、「小テストの実施」・「課題を与えた」・「レポートの実施」・「レポートの提出を求めた」・「レポートにまとめて発表してもらった」・「宿題とグループでの発表」・「小テスト・自己課題等、添削して返却している」といった小テスト、レポートなどの課題・宿題という回答が圧倒的に多かった。その次に多かったのが、「積極的にグループ討議を行って学生に発話の機会を求めた」・「自己の意見を述べさせた」・「授業中に学生に質問した」といった学生に発話を求めるという回答であった。その他では、「レジюмеをスクリーンに映し出す」・「細かく板書」・「実務体験からの話をした」・「毎回、前回の重要ポイントについて復習を行った」・「テキストを作成」といった回答があった。

ベーシック科目についても、「小テスト」・「課題を毎回与えたこと」・「課題演習」・「レポートを実施、発表させた」など小テストの実施と課題・レポートを与えたという回答が一番多かった。その次に、「学生に発話させた」・「人前で発表してもらった」・「自分の意見を発表してもらった」といった学生の発話に関する回答が多かった。さらに、「レジюмеの提示」・「レジюмеをスクリーンに映し出した」・「具体的な計算を、ホワイトボードに書いて過程を示す」・「平易な言葉で講義」・「実践例を用いて解説」・「具体例を紹介した」など講義法に関する回答も複数あった。その他では、「専門論文を紹介して、理解を深めた」・「レジюмеを前もって配布し予習の便をはかった」・「自ら考える機会を提供」・「演習を通じての復習」などの回答があった。

アドバンスト科目についても、「小テストの実施」・「中間テスト」といったテストに関する回答は1番多く、「レポート」・「ミニ・レポートとその発表」・「課題演習」が次に多かった。また、「毎回の発表」・「グループ討議」・「学生に何回も質問し、説明を求めた」・「発話の機会を増やした」・「考え方を発表してもらった」といった学生の発表、発話の機会を設けたという回答も複数見られた。その他では、「問題演習」・「実習授業」のほか、「事例をもとに授業のプログラムをたてた」・「毎回の復習を、毎回、実施」・「頭を使う時間をとった」・「質問がしやすい形をとった」・「次週の講義範囲の短答式問題を事前に配布し、予習資料として活用してもらった」などの回答があった。

- ③ 「担当科目について改善・工夫した方がよい点」を問う設問 2-2 に関して、コア科目については、「小テストの実施」が一番多かった。その他、「復習のための教材を確保」・「担当教員がテキストを執筆」・「レジюмеとテキストとワークブックの連動性を高めること」など教材面の回答も複数あった。「事前に予習範囲を明示する」・「予習を促す工夫」といった予習に関する回答も複数あった。その他、「質問しやすい工夫をすること」・「質問時間がとれない」・「一方的な講義になってしまった」・「学生の理解度に合わせた講義」・「進捗スピードの見直し」・「時間配分」・「文章の記述の機会を増やす」などの回答があった。

ベーシック科目については、多彩な回答がみられた。その中、複数あった回答としては、

「時間が不足気味で、ポイントを絞った方が良く感じた」・「論点を絞り込んだ方がよい」・「時間配分」といったポイントの絞り込み、時間配分についての回答、「受講生の自主性を引き出す工夫が必要」「学生の主体性の引き出し方」・「学生自身で議論できるように工夫していきたい」・「質問の件数が少なかった」といった学生の主体性を引き出すことに関連した回答、「さらに興味深い題材を取り入れていきたい」「事例収集を行いたい」といった事例や題材収集に関連するものがあった。その他としては、「学生の理解度に合わせた講義をすること」・「文章を図解するなどイメージによる理解が促進されるようにすること」・「遅刻や欠席に対する対応」・「小テストの実施」・「現実の財務諸表を提示した方が良かったのではなかったかを感じる」・「計算問題を解く時間をもっとつくる」・「丁寧な説明」・「課題については、レポートとして提出を求めるべきであったと思う」・「事前学習範囲の絞り込みや指示」など様々な回答が見られた。

アドバンスト科目については、「特になし」という回答が一番多かった。その他では、「質問しやすい工夫をすること」・「質問時間がとれない」といった質問に関する回答、「社会経験のない学生に理解を高めさせる」・「予備知識のない学生に理解を高めさせる」といった理解を促す方法に関する回答、「レジュメの改訂」・「担当教員がテキストを執筆」・「演習問題のアップデート」・「実習教材の整理」といった教材に関する回答が複数あった。その他、「時間配分」・「さらに興味深い題材をとり入れる」・「ディスカッションの時間がとれなかった」・「ミニストの実施」・「論点ごとに区切った方が良かった」などの回答があった。

- ④ 「講義目標の達成度」を問う設問3に関しては、「達成できた」、「おおむね達成できた」との回答が大半であった。ただし、少ないとはいうものの、「受講生の理解度にはばらつきがあった。」・「試験の成績は良くなかった。」・「不十分」「全く達成できていない」などの回答も見られた。

(3) 自己評価表の全体的傾向

会計専門職専攻教員の担当科目自己評価表から整理できる全体的な傾向としては、以下の点である。

- ① 「この科目を担当するにあたって最も力を入れたこと」に関しては、担当科目の科目区分(コア・ベーシック・アドバンスト)を踏まえて、担当科目に関する基礎的知識の習得、体系的な理解、計算能力の養成などが回答されており、総じて、担当教員が科目区分、プログラム、そして科目の性質(課題研究・詳説、事例研究、自治体関係)を踏まえて講義に望んでいるものと思われる。

ただし、当該設問は、教員が目指す目標であると同時に学生が講義を通じて達成すべき到達点を示し、また講義に臨む姿勢などを示す部分でもある。そして、「講義目標の達成度」と関連しているものであるため、記述はさらに具体的であることが望ましい。

- ② 「実施して良かった点」に関しては、小テストの実施、課題・レポートの提出を求める

といった回答が各科目群を通じて多いことは、学生の講義内容の理解度の確認とこれを通じた講義内容の改善に有用であることを示唆するものである。もちろん、事前課題の提示、予習の促し方、事後課題の賦課等の方法と合わせて、講義内容の理解を促す方法について、継続して実施・改善することが必要である。

- ③ 「改善・工夫した方が良い点」に関しては、講義の時間配分、学生の主体性の引き出し方、予習の促し方、教材・資料の改善、小テストの実施、質問時間等の確保、といった回答が大勢といえ、これがあると認識している教員においては、早期に実施すべきことが要請される。
- ④ 「改善・工夫した方が良い点」に関して「特になし」と回答した教員、そして、「講義目標の達成度」に関して達成できた、おおむね達成できたとの回答をした教員においても、学生による授業評価アンケートと試験結果とを踏まえて、自己評価表を見直すことが要請される。

6. まとめと残された問題

学生による授業評価アンケートと担当教員による授業自己評価アンケートは、2005年度経営戦略研究科開設から実施していたが、2009年度春学期においてアンケート用紙の構成を変更し、あわせて若干の質問項目の整理を行った。ただし、各アンケートの質問に対する回答結果の時系列の観察は可能となっている。これにより、本報告においても、アンケート結果の時系列の評価を多く取り入れた分析を実施している。

また、国際経営コースについては、質問言語等の問題から2008年度まではコース独自のアンケート用紙を用いて学生による授業評価をおこなっていたところであるが、2009年度春学期からは経営戦略研究科統一のアンケート用紙を用いて実施しており、企業経営戦略コースとの比較も可能となっている。

本報告では、受講生の総合的な満足尺度ともいえる「この授業は全般的に満足のいくものでしたか」という質問と他の質問について、相関係数を算出して分析を試みるとともに、従来は国際経営コースのみで行われていた、科目別の授業満足度平均値の一覧表を掲載している。

教員による授業自己評価アンケートは、自由記述形式となっており、授業担当者自らによる授業実施上の努力と評価が記載されている。

今後とも経営戦略研究科として、アンケート分析を活用し、専攻の違いを踏まえた具体的な活動への示唆へとりまとめていく必要があると考えられる。

(1) 経営戦略専攻企業経営戦略コース

学生による授業評価アンケートについての今回の評価結果は、概して高い水準を保っていると考える。具体的には、「教員の授業内容と方法」に関する満足度（設問1～設問9：平均4.47）および「授業に対する満足度（設問12～設問14：平均4.26）」についての平均値は比較的高いものであった。ただし、例年と同じく、「学生自身の取り組み」については低い平均値（設問10

～設問 11：平均 3.95) となっていた。

経年変化を見ると、類似の科目が開講された 2009 年度春学期と比較して「教員の授業内容と方法(設問 1～設問 9)」については 9 項目中 7 項目でわずかではあるがプラスの変化が見られた。

「授業に対する満足度(設問 12～設問 14)」に関しては 2009 年度春学期と小数以下一桁レベルでは変化はなかった。「学生自身の取り組み(設問 10～設問 11)」に関しても同様である。

設問 13「この授業は全体的に満足いくものでしたか」との相関分析からは、企業経営戦略コースの学生は仕事に役立つ講義に対して高い満足度を示す事や分析能力や批判力が養われる科目に対して高い満足度を示すことが推察される。また、学生の満足度を高めるためには、教員は十分に準備をして授業に臨むことはもとより、学生が発言したり議論したりすることを促すとともに、個々の学生の内容理解の水準にも目配りして質問に丁寧に答えることが求められる事が示唆された。

学生の満足度と相関が高い設問のうち、学生からの評価の平均点が比較的低かった設問として、設問 6「教員は個々の学生の内容理解の水準を考慮していたか」の平均点が 4.18 と「教員の授業内容と方法」の設問項目中で一番低かった。多様な学歴や職歴を持ち、履修の自由度との兼ね合いで場合によっては前提となる知識を学ぶ科目の履修が済んでいないなど知識レベルが様々な学生に対して、個々の内容理解の水準を考慮して授業を進めるのは多大な困難が伴うが、それを乗り越えたとき、専門職大学院の顧客である学生の満足度が高まるのであろう。

担当教員による授業自己評価アンケートをみると「実施して良かった点」に関しては、小テスト、グループワーク、ケーススタディの発表、レポートに対するコメント、ゲストスピーカーの活用などが挙げられている。OB・OGとの合同授業、ゼミ合宿や交流会を実施した講義もあった。

「改善・工夫した方がよい点」に関しては、受講生の多さや学生の理解のバラつきから、シラバスどおりに授業を進めることの難しさが窺われた。これらへの対応によりアンケートの評価ポイントがさらに高位に安定することが今後の課題である。

(2) 経営戦略専攻国際経営コース

学生による授業評価結果は、前回同様、概ね良好である。いずれの質問項目の平均値も「Strongly agree」、「Agree」の中間の値となっている。ただし、「十分な予習・復習の実施」(質問項目 10)、「文献検索などの主体的な努力」(質問項目 11)では平均値が「Agree」の水準を割り込む結果であった。

前年同期からの変化に目を転じると、国際経営コースの授業に対する学生の評価は全質問項目で低下している。教員側のパフォーマンスに対する評価(質問項目 5～7)だけではなく、学生による評価(質問項目 10～13)も低下する結果となっている。科目群別にみると、コア科目での評価の低下が著しかった。こうした状況の背景は主に一年生の増加に伴うクラス規模の拡大であると考えられる。コア科目の授業で提供される内容が劣化した可能性も完全には否定できないが、後述する教員の自己評価も併せて考えると、一年生の大幅な増加に伴う弊害と考えるほうが

より自然なものと思われる。

クラスサイズの急激な拡大による弊害は、担当教員による授業評価アンケートでも指摘されている。具体的には、学生当たりの発言機会が減少した、学生の理解レベルのバラツキが拡大したため授業レベルの設定が難しくなった、一年生の比率が高まったため（ベーシック、アドバンストの科目群でも）基礎的な内容もカバーする必要性が増えた、などである。その一方で、クラスサイズの拡大に伴う発言内容の多様化を積極的に評価する声もあった。

「改善・工夫をした方が良い点」としては、引き続き、科目間のシークエンスの確立が挙げられている（Corporate Finance を履修する前に、確実に Principles of Finance を履修させるなど）。履修指導の徹底などを通じて解決を図るべき課題である。日本の企業に関するケース素材の開発も継続課題として指摘されており、科目間のシークエンスの確立と併せて、国際経営コース全体の課題として組織的な取り組みが必要であるものと考えられる。

（3）会計専門職専攻

専攻平均値は、開設以来 2007 年度秋学期まで上昇し続け、それ以来 2008 年度秋学期まで 4.4 から 4.5 と高い値を記録していた。2010 年度春学期は 4.3 と依然として高い数値であるものの、2009 年度春学期と同様に、前学期から 0.2 ポイント低下している。秋学期よりも春学期の方の入学者が多く、新入生が大学院のカリキュラムなどに不慣れな点が現れている可能性が考えられるが、今後の傾向に注視する必要があるだろう。

教員の授業内容と方法に関する個別評価では、設問 3 を除き、前学期に比して評点が低下しているものの、4.5 以上という高い評価を得ている。したがって、担当科目についての資質を有する教員が、シラバスに沿って、資料の作成等を含む十分な準備をして授業を実践しているとの評価を得ていると言えるであろう。

学生自身の取り組みを問う設問 10 および設問 11 の評点については、設問 10 は前学期の 4.1 から 3.9 に、設問 11 は前学期の 4.0 から 3.8 に低下し 2009 年度春学期の水準に戻っている。設問 10 に関しては予習、復習の大切さを改めて喚起する必要があるだろう。ただし、この場合、授業で与える課題の量とのバランスに留意することも必要であろう。設問 11 については、教科書・配布資料に加えて、教員が参考文献などを授業の中で紹介したり、レポートや課題を課す際に文献にあたる指導をしたりすることなども考慮すべきであると考えられる。

授業の満足度については、今回はいずれも前学期よりも低下しており、設問 12 では 0.2 ポイントの低下、設問 13 と設問 14 では 0.1 ポイントの低下となっている。設問 12 については、コア科目の評点が 3.9 と低いものとなっている。前述のとおり、コア科目は分析能力や批判力の基礎を涵養する導入教育であることから、やむを得ない部分もあろうかと思われるが、担当教員の授業方法のさらなる改善を期待したい。後述の教員の担当科目自己評価表と合わせて検討するとともに、FD 活動において取り上げるべき課題の 1 つと言えよう。

学生の満足度を問う設問 13 は、設問 14 との相関が 0.84 と最も高く、これに次いで設問 6 と設問 8 との相関が 0.62 と高い。後者からは、授業内容の水準と量のバランスを取り、授業内容

の理解度を高めることの重要性を改めて示唆するものであろう。「授業の満足度」への取り組みは継続的なカイゼン活動である。授業内容（水準（質）と量）と方法はもとより、設問 10 と設問 11 の評点が低いことを勘案すると、「学生自身の取り組み」に対する教員の対応も重要な要素である点に留意すべきである。

会計専門職専攻教員の担当科目自己評価表から整理できる全体的な傾向としては、「この科目を担当するにあたって最も力を入れたこと」に関しては、担当科目の科目区分（コア・ベーシック・アドバンスト）を踏まえて、担当科目に関する基礎的知識の習得、体系的な理解、計算能力の養成などが回答されており、総じて、担当教員が科目区分、プログラム、そして科目の性質（課題研究・詳説、事例研究、自治体関係）を踏まえて講義に望んでいるものと思われる。

「実施して良かった点」に関しては、小テストの実施、課題・レポートの提出を求めるといった回答が各科目群を通じて多いことは、学生の講義内容の理解度の確認とこれを通じた講義内容の改善に有用であることを示唆するものである。もちろん、事前課題の提示、予習の促し方、事後課題の与え方等と合わせて、講義内容の理解を促す方法について、継続して実施・改善することが必要である。

「改善・工夫した方がよい点」に関しては、講義の時間配分、学生の主体性の引き出し方、予習の促し方、教材・資料の改善、小テストの実施、質問時間等の確保、といった回答が大勢といえ、これがあると認識している教員においては、早期に実施すべきことが要請される。「特になし」と回答した教員、そして、「講義目標の達成度」に関して達成できた、おおむね達成できたとの回答をした教員においても、学生による授業評価アンケートと試験結果とを踏まえて、自己評価表を見直すことが要請される。

（４）今後の課題

学生による授業に関するアンケートおよび教員の担当科目自己評価の実施を通じて、経営戦略研究科では、ビジネススクール（経営戦略専攻）およびアカウンティングスクール（会計専門職専攻）の両教育に固有の諸課題を把握し教職員間の共有を図っている。今後は、グラフ、各種統計手法や授業満足度とのクロス集計結果の一層の活用等、教員の資質向上、教育内容改善に対するモチベーションを高める施策について今後とも引き続き議論し、ビジネススクールおよびアカウンティングスクールの教育の質的向上を図っていく必要がある。

以 上

関西学院大学専門職大学院経営戦略研究科
自己評価委員会

コンビーナー 甲斐良隆

添付資料

I. 2010年度専任教員相互授業参観・意見交換会

■指定科目授業参観

○時期：6月12日（土）～17日（木）

○対象科目：

会計専門職専攻

日程	科目	担当者	期間	曜日	時限	教室	キャンパス
6/12	経営学2	加藤 雄士	春後半	土	I	BA402	上ヶ原
				土	II	BA402	上ヶ原
6/17	管理会計事例研究	徳崎 進	春後半	木	VI	OC1403	梅田
				木	VII	OC1403	梅田

■授業参観後の意見交換会

日時：7月14日（水）AS専攻会議後～

備考：経営戦略専攻については、授業参観は実施せず、授業方法に関する研修会を実施した。

以上

2010年度春学期授業評価アンケート実施授業科目一覧

講義コード	科目	クラス	教員	期間	曜日	時限	履修
経営戦略専攻企業経営戦略コース							
97101001	企業倫理	1	宮本 又郎	春前	木曜日	VI	37
97102001	経営学	1	小高 久仁子	春前	月曜日	VI	27
97102002	経営学	2	松田 陽一	春後	金曜日	VI	20
97103001	会計学	1	児島 幸治	春前	日曜日	集中	28
97104001	経済学	1	新庄 浩二	春後	木曜日	VI	34
97105001	統計学	1	羽室 行信	春前	月曜日	VI	23
97106001	英語コミュニケーション	1	マーク シニア	春前	水曜日	VI	19
97106002	英語コミュニケーション	2	マーク シニア	春後	水曜日	VI	22
97151001	経営戦略	1	小高 久仁子	春後	月曜日	VI	32
97152001	人的資源開発	1	石田 英夫	春前	金曜日	VI	17
97152500	組織行動		北居 明	春前	火曜日	VI	46
97153001	マーケティング・マネジメント	1	佐藤 善信	春後	土曜日	I	56
97154001	ファイナンス	1	甲斐 良隆	春前	金曜日	VI	25
97155001	企業ファイナンス	1	岡田 克彦	春後	日曜日	集中	15
97157001	財務諸表分析	1	徳崎 進	春前	土曜日	I	10
97158001	テクノロジー・マネジメント	1	玉田 俊平太	春後	土曜日	VI	30
97159001	情報システム	1	羽室 行信	春前	土曜日	VI	9
97161001	ベンチャービジネス	1	定藤 繁樹	春前	土曜日	III	20
97161002	ベンチャービジネス	2	定藤 繁樹	春	夏集中	集中	44
97162000	行動科学		山本 昭二	春後	火曜日	VI	17
97163000	統計分析論		有馬 昌宏	春前	火曜日	VI	32
97164000	産業組織論		新庄 浩二	春後	土曜日	III	9
97165501	クリティカル・シンキング	1	佐藤 善信	春前	土曜日	I	55
97166000	会社法		大和 正史	春後	月曜日	VI	21
97167001	上級英語コミュニケーション	1	ジョセフ シーハン	春前	土曜日	III	5
97201000	企業経営史		宮本 又郎	春後	木曜日	VI	13
97207000	組織管理事例研究		小美野 広行	春後	土曜日	III	42
97208001	経営戦略事例研究	1	小美野 広行	春前	土曜日	III	30
97212001	マーケティング・コミュニケーション	1	梅本 春夫	春	夏集中	集中	36
97213000	マーケティング戦略		佐藤 善信	春後	日曜日	集中	16
97214000	流通システム		山本 昭二	春前	土曜日	VI	12
97219000	金融工学		甲斐 良隆	春後	金曜日	VI	27
97222000	証券投資		岡田 克彦	春前	木曜日	VI	14
97229000	金融機関経営		ジョン ホング	春後	火曜日	VI	12
97232000	データマイニング		羽室 行信	春前	日曜日	集中	14
97233001	製品開発事例研究	1	澤ノ井 誠	春後	土曜日	VI	4
97234000	アントレプレナーシップ		定藤 繁樹	春後	土曜日	III	19
97235000	e ビジネス事例研究		吉田 雅紀	春前	月曜日	VI	13
97237000	ベンチャービジネス事例研究		吉田 雅紀	春後	土曜日	I	7
97238000	企業倫理事例研究		石田 寛	春後	月曜日	VI	15
97240000	ITマネジメント		湯浅 忠	春前	水曜日	VI	16
97242000	企業経営戦略特論A		土井 教之	春後	土曜日	III	19
97244200	企業経営戦略特論D		村上 路一	春後	水曜日	VI	24
97245002	課題研究基礎	2	宮本 又郎	春前	金曜日	VI	9
97245004	課題研究基礎	4	岡田 克彦	春	夏集中	集中	3
97245007	課題研究基礎	7	羽室 行信	春後	日曜日	集中	3
97246001	課題研究	1	宮本 又郎	春学期	土曜日	I	2
97246003	課題研究	3	小高 久仁子	春学期	土曜日	I	4
97246005	課題研究	5	佐藤 善信	春	日曜日	集中	4
97246007	課題研究	7	山本 昭二	春学期	土曜日	I	2
97246009	課題研究	9	甲斐 良隆	春学期	土曜日	I	7
97246011	課題研究	1 1	石田 英夫	春学期	土曜日	I	4
97246015	課題研究	1 5	定藤 繁樹	春学期	土曜日	I	6
97246017	課題研究	1 7	玉田 俊平太	春	日曜日	集中	2
97246019	課題研究	1 9	羽室 行信	春	日曜日	集中	1
経営戦略専攻国際経営コース							
97301001	Business Ethics	1	石田 寛	春後	月曜日	III	23
97302001	Management	1	鈴木 修	春前	火曜日	I	15
97303001	Accounting for Decision Making	1	児島 幸治	春前	水曜日	I	17
97304001	Business Economics	1	新庄 浩二	春後	火曜日	II	17

講義コード	科目	クラス	教員	期間	曜日	時限	履修
97305001	Statistics	1	竹澤 直哉	春前	火曜日	Ⅲ	13
97306001	English Communication	1	マーク シニア	春前	水曜日	Ⅲ	21
97354001	International Management	1	デヴィッド メッセイ	春前	月曜日	Ⅲ	15
97356001	Marketing Management	1	ノーリア アハマド	春前	月曜日	Ⅲ	7
97358001	Principles of Finance	1	ジョン ホング	春前	火曜日	Ⅴ	9
97359001	Corporate Finance	1	前田 祐治	春後	木曜日	Ⅱ	16
97362000	Advanced English for Business Studies		ジョセフ シーハン	春後	土曜日	Ⅲ	20
97403000	Cross-Cultural Management		マイケル ボプロブ	春後	火曜日	Ⅴ	7
97404000	Organizational Behavior		鈴木 修	春後	火曜日	Ⅲ	10
97405000	Human Resource Management		関口 倫紀	春前	火曜日	Ⅲ	13
97406000	Marketing Research		中西 正雄	春後	木曜日	Ⅳ	12
97407001	Marketing Case Analysis	1	ノーリア アハマド	春後	月曜日	Ⅲ	2
97408000	Product Innovation		玉田 俊平太	春前	土曜日	Ⅵ	4
97409001	International Marketing Practice	1	M. J. グルーベル	春前	火曜日	Ⅱ	9
97410000	Brand Management		北村 秀実	春	夏集中	集中	10
97411001	Marketing Communication		北村 秀実	春前	金曜日	Ⅳ	2
97413000	Financial Institutions Management		前田 祐治	春前	月曜日	Ⅲ	3
97414000	Capital Markets		ジョン ホング	春後	金曜日	Ⅳ	14
97422000	Japanese Business		石井 竜馬	春後	月曜日	Ⅳ	6
97423000	Practitioner Perspectives on Management		冬野 勝紀	春前	火曜日	Ⅱ	2
97424000	Advanced Topics in Business A		ノーリア アハマド	春後	木曜日	Ⅱ	4
97425000	Advanced Topics in Business B		北村 秀実	春後	金曜日	Ⅵ	3
97426000	Advanced Topics in Business C		小田部 正明	春後集中	その他	集中	11
97428000	Advanced Topics in Business E		ジャフアー フセイニ	春後	火曜日	Ⅴ	4
97429001	Group Research Project	1	ジョン ホング	春前	水曜日	Ⅳ	5
97429002	Group Research Project	2	鈴木 修	春後	木曜日	Ⅰ	2
97430001	Individual Research	1	デヴィッド メッセイ	春学期	月曜日	Ⅰ	3
97430003	Individual Research	3	ジョン ホング	春学期	月曜日	Ⅰ	2
97430005	Individual Research	5	中西 正雄	春学期	水曜日	Ⅲ	2
97430007	Individual Research	7	鈴木 修	春学期	月曜日	Ⅰ	3
	会計専門職専攻						
97511001	国際会計論	1	杉本 徳栄	春前	金曜日	Ⅲ	45
97511002	国際会計論	2	杉本 徳栄	春後	土曜日	Ⅰ	34
97512000	簿記原理		藤岡 英治	春前	土曜日	Ⅰ	28
97513001	簿記基礎	1	山地 範明	春後	土曜日	Ⅲ	45
97514001	簿記	1	中島 稔哲	春前	木曜日	Ⅵ	22
97514002	簿記	2	中島 稔哲	春後	木曜日	Ⅰ	35
97514301	会計学原理	1	石原 俊彦	春前	木曜日	Ⅵ	19
97514601	会計学	1	中島 稔哲	春前	土曜日	Ⅰ	19
97516001	財務会計論	1	山地 範明	春前	土曜日	Ⅰ	20
97516002	財務会計論	2	山地 範明	春後	火曜日	Ⅰ	22
97532001	管理会計論	1	浜田 和樹	春前	月曜日	Ⅲ	10
97532002	管理会計論	2	浜田 和樹	春後	火曜日	Ⅵ	18
97532501	工業簿記基礎	1	引地 夏奈子	春後	月曜日	Ⅵ	23
97533501	工業簿記	1	吉川 郁夫	春前	土曜日	Ⅲ	28
97534001	原価計算論	1	西尾 宇一郎	春前	土曜日	Ⅴ	23
97534002	原価計算論	2	西尾 宇一郎	春後	土曜日	Ⅲ	25
97551001	会計倫理	1	西尾 宇一郎	春前	月曜日	Ⅲ	40
97551002	会計倫理	2	西尾 宇一郎	春後	土曜日	Ⅴ	32
97552001	監査論	1	上田 耕治	春前	木曜日	Ⅰ	29
97552002	監査論	2	上田 耕治	春後	土曜日	Ⅰ	26
97561000	経済学		新庄 浩二	春前	水曜日	Ⅲ	3
97562001	経営学	1	加藤 雄士	春前	土曜日	Ⅰ	6
97562002	経営学	2	加藤 雄士	春後	土曜日	Ⅰ	9
97562003	経営学	3	加藤 雄士	春	夏集中	集中	30
97563001	I T基礎	1	吉川 郁夫	春前	金曜日	Ⅰ	19
97564000	地方行財政基礎		稲澤 克祐	春前	火曜日	Ⅰ	7
97580501	企業法基礎	1	岡本 智英子	春前	土曜日	Ⅲ	19
97581001	企業法	1	岡本 智英子	春前	火曜日	Ⅰ	10
97581002	企業法	2	岡本 智英子	春後	木曜日	Ⅵ	13
97582001	租税法基礎	1	西尾 宇一郎	春前	月曜日	Ⅵ	17
97583001	法人税法	1	西尾 宇一郎	春後	月曜日	Ⅵ	18
97584000	地方税基礎		横山 直子	春後	土曜日	Ⅴ	2

講義コード	科目	クラス	教員	期間	曜日	時限	履修
97611001	簿記応用	1	山地 範明	春前	月曜日	I	6
97612001	会計基準論	1	中島 稔哲	春後	木曜日	III	9
97613101	国際会計基準論A	1	杉本 徳栄	春前	金曜日	VI	4
97613501	国際会計基準論B	1	杉本 徳栄	春後	土曜日	III	10
97614001	連結財務諸表論	1	山地 範明	春後	月曜日	I	6
97615001	会計制度論	1	吉川 郁夫	春後	月曜日	I	24
97616001	国際公会計論	1	稲澤 克祐	春後	土曜日	I	12
97619001	公会計論	1	稲澤 克祐	春前	土曜日	V	12
97632101	原価管理論	1	玉置 求己	春後	土曜日	V	13
97633001	財務分析	1	井上 浩一	春前	金曜日	VI	8
97651001	監査制度論	1	上田 耕治	春前	土曜日	V	16
97651501	監査概念論	1	林 隆敏	春後	火曜日	III	31
97652001	監査基準論	1	野呂 貴生	春後	土曜日	V	9
97653001	国際監査論	1	吉川 郁夫	春後	木曜日	VI	29
97662001	財政学	1	三木 潤一	春前	水曜日	VI	16
97665001	経営管理論	1	加藤 雄士	春前	土曜日	III	8
97667001	経営財務論	1	加藤 雄士	春後	土曜日	III	11
97668001	ビジネスコミュニケーション	1	マーク シニア	春後	水曜日	III	4
97669001	行政経営論	1	石原 俊彦	春前	土曜日	III	11
97669500	I T 統制		木村 安寿	春	夏集中	集中	25
97681001	民法	1	松野 友芳	春前	金曜日	III	6
97681002	民法	2	松野 友芳	春後	金曜日	VI	13
97682001	商法	1	岡本 智英子	春後	火曜日	I	6
97683001	会社法	1	池島 真策	春前	火曜日	VI	14
97685001	金融商品取引法	1	田中 庸介	春前	土曜日	V	12
97686001	所得税法・消費税法	1	井村 登	春	夏集中	集中	40
97687000	租税法実務		瀬戸口 有雄	春前	金曜日	VI	10
97713001	中小会社会計論	1	瀬戸口 有雄	春後	金曜日	VI	21
97717500	簿記課題研究		中島 稔哲	春学期	火曜日	VI	9
97723000	財務会計論文指導 I		杉本 徳栄	春学期	火曜日	VI	5
97731001	意思決定会計論	1	浜田 和樹	春前	土曜日	I	15
97731501	業績評価会計論	1	浜田 和樹	春後	月曜日	III	15
97732000	会計情報システム		木村 安寿	春前	土曜日	III	17
97733000	地方自治体原価計算論		遠藤 尚秀	春前	土曜日	V	5
97735000	地方自治体予算管理論		稲澤 克祐	春前	土曜日	III	7
97736000	管理会計課題研究		浜田 和樹	春学期	木曜日	VI	1
97737000	管理会計事例研究		徳崎 進	春後	木曜日	VI	4
97751501	内部統制論	1	吉川 郁夫	春後	金曜日	I	23
97752000	地方自治体内部統制論		石原 俊彦	春後	土曜日	III	12
97752901	内部監査論	1	吉川 郁夫	春前	月曜日	VI	18
97754000	地方自治体監査論		小市 裕之	春後	土曜日	I	8
97755500	監査課題研究		上田 耕治	春学期	木曜日	III	4
97756500	監査事例研究		井上 浩一	春後	金曜日	VI	3
97762500	企業ファイナンス		徳崎 進	春前	火曜日	VI	2
97767000	地方自治体情報システム		木村 公則	春	夏集中	集中	6
97768501	行政経営事例研究	1	武久 颯也	春	夏集中	集中	10
97769501	海外行政経営事情	1	武久 颯也	春前	金曜日	VI	2
97770000	地方自治体人材開発論		山中 俊之	春前	土曜日	I	9
97771000	公共ガバナンス論		太田 康嗣	春後	金曜日	VI	4
97781500	倒産処理法		田中 庸介	春後	土曜日	V	5
97782500	信託法		杉浦 宣彦	春	夏集中	集中	16
97783501	企業法要説	1	朝沼 晃	春前	水曜日	III	3
97786500	企業法課題研究		岡本 智英子	春学期	火曜日	III	3
97787500	租税法事例研究		井村 登	春後	月曜日	VI	8
97788000	会社法事例研究		池島 真策	春後	火曜日	VI	4

授業評価 アンケート回答用紙

このアンケートは、授業をより充実させるための資料として教育改善を図ることを目的として実施します。
この調査回答があなたの成績に影響することはありません。率直に、かつ責任ある回答をしてください。

記入上の注意

1. 記入は、HBの鉛筆またはシャープペンシルを使用してください。
2. 訂正する場合はプラスチック消しゴムで完全に消してください。
3. 用紙を折り曲げたり、汚したりしないでください。

マーク例



科目名	
担当者名	
クラス	曜日

学年	① 1年	② 2年	③ それ以上		
所属専攻	① 経営戦略	② 会計専門職	③ その他		
出身学部	① 商・経済・経営系	② その他の社会科学系	③ 人文系	④ 理系	⑤ その他
実務経験年数	① なし	② 3年未満	③ 3年以上7年未満	④ 7年以上20年未満	⑤ 20年以上
公認会計士試験	① 受験予定	② 受験しない			

記述評価項目

a) この授業で良かったところを具体的に書いてください。

.....

.....

b) この授業で変えてほしいところがあれば、具体的に書いてください。

.....

.....

c) この授業に関してほかに気づいたことがあれば書いてください。

.....

.....

	⑤ そう思う	④ だいたい そう思う	③ どちらとも 言えない	② あまりそう 思わない	① そう 思わない	① 該当 しない
設問 1 授業内容は、シラバスで示された主題や目的に十分沿っていましたか。	⑤	④	③	②	①	①
設問 2 教員は十分に準備をして授業に臨んでいましたか。	⑤	④	③	②	①	①
設問 3 教員は、担当科目の授業を行うのに十分な専門知識を持っていましたか。	⑤	④	③	②	①	①
設問 4 授業で指定された教科書や配布された資料は、学習の助けとなりましたか。	⑤	④	③	②	①	①
設問 5 教員は学生が発言したり議論をすることに十分な配慮を払いましたか。	⑤	④	③	②	①	①
設問 6 教員は、個々の学生の内容理解の水準を考慮していましたか。	⑤	④	③	②	①	①
設問 7 この授業で与えられる課題の量は適正なものでしたか。	⑤	④	③	②	①	①
設問 8 授業の内容と時間配分は適正なものでしたか。	⑤	④	③	②	①	①
設問 9 教員は学生の質問に丁寧に答えていましたか。	⑤	④	③	②	①	①
設問 10 この授業を受けるに当たって十分な予習や復習を行いましたか。	⑤	④	③	②	①	①
設問 11 この授業を受けるに当たって自分から文献を探すなどの努力をしましたか。	⑤	④	③	②	①	①
設問 12 この授業を受けることで分析能力や批判力がついたと思いますか。	⑤	④	③	②	①	①
設問 13 この授業は全般的に満足のいくものでしたか。	⑤	④	③	②	①	①
設問 14 この授業は仕事に役立ちましたか。	⑤	④	③	②	①	①
設問 15	⑤	④	③	②	①	①

Class Evaluation questionnaire sheet

This evaluation is conducted for the purpose of educational development to improve the course. This survey will not affect your grades. Please be honest and considerate in your answers.

- Notes**
1. Use HB pencil or mechanical pencil.
 2. Erase errors clearly with an eraser.
 3. Do not fold or damage the sheet.

Example



Course title	
Instructor	
Class	Day

Year	① First	② Second	③ Third		
School	① BS	② AS	③ Other		
Undergrad major	① Commerce/Economics/Management	② Other Social Science	③ Humanities	④ Science/Engineering	⑤ Other
Career	① None	② Less than 3 years	③ 3-7 years	④ 7-20 years	⑤ More than 20 year
Will you take CPA exam?	① Yes	② No			

Description

a) Describe good points of the course in detail.

.....

.....

b) Describe your suggestions in detail for further improving the course.

.....

.....

c) Describe any further comments you have concerning the course.

.....

.....

	Strongly agree	Agree	Neutral	Disagree	Strongly disagree	No answer
1 The course met the objectives and topics described in the syllabus.	⑤	④	③	②	①	①
2 The instructor was well prepared for the classes.	⑤	④	③	②	①	①
3 The instructor's knowledge level was high enough to teach the course.	⑤	④	③	②	①	①
4 The prescribed textbooks and teaching materials were helpful for your learning.	⑤	④	③	②	①	①
5 The instructor encouraged students comment and discussion.	⑤	④	③	②	①	①
6 Instructor's interest in whether students learned was high.	⑤	④	③	②	①	①
7 The amount of work assigned was reasonable.	⑤	④	③	②	①	①
8 The course was well organized in terms of contents and time allocation.	⑤	④	③	②	①	①
9 The instructor answered students' questions clearly and sufficiently.	⑤	④	③	②	①	①
10 You prepared and reviewed thoroughly for the classes.	⑤	④	③	②	①	①
11 You made additional efforts for the course such as searching related materials for course topics.	⑤	④	③	②	①	①
12 You have obtained analytical abilities and critical thinking from the course.	⑤	④	③	②	①	①
13 Overall, you are satisfied with the course, and recommend it to your fellow students.	⑤	④	③	②	①	①
14 Course content were highly relevant and useful for your future career.	⑤	④	③	②	①	①
15	⑤	④	③	②	①	①

Thank you for your cooperation.

授業評価 アンケート回答用紙

このアンケートは、授業をより充実させるための資料として教育改善を図ることを目的として実施します。
この調査回答があなたの成績に影響することはありません。率直に、かつ責任ある回答をしてください。

記入上の注意

1. 記入は、HBの鉛筆またはシャープペンシルを使用してください。
2. 訂正する場合はプラスチック消しゴムで完全に消してください。
3. 用紙を折り曲げたり、汚したりしないでください。

マーク例



科目名	
担当者名	
クラス	曜日

学年	① 1年	② 2年	③ それ以上		
所属専攻	① 経営戦略	② 会計専門職	③ その他		
出身学部	① 商・経済・経営系	② その他の社会科学系	③ 人文系	④ 理系	⑤ その他
実務経験年数	① なし	② 3年未満	③ 3年以上7年未満	④ 7年以上20年未満	⑤ 20年以上
公認会計士試験	① 受験予定	② 受験しない			

記述評価項目

a) この授業で良かったところを具体的に書いてください。

.....

.....

b) この授業で変えてほしいところがあれば、具体的に書いてください。

.....

.....

c) この授業に関してほかに気づいたことがあれば書いてください。

.....

.....

	⑤	④	③	②	①	①
	⑤	④	③	②	①	①
設問 1 授業内容は、シラバスで示された主題や目的に十分沿っていましたか。	⑤	④	③	②	①	①
設問 2 教員は十分に準備をして授業に臨んでいましたか。	⑤	④	③	②	①	①
設問 3 教員は、担当科目の授業を行うのに十分な専門知識を持っていましたか。	⑤	④	③	②	①	①
設問 4 授業で指定された教科書や配布された資料は、学習の助けとなりましたか。	⑤	④	③	②	①	①
設問 5 教員は学生が発言したり議論をすることに十分な配慮を払いましたか。	⑤	④	③	②	①	①
設問 6 教員は、個々の学生の内容理解の水準を考慮していましたか。	⑤	④	③	②	①	①
設問 7 この授業で与えられる課題の量は適正なものでしたか。	⑤	④	③	②	①	①
設問 8 授業の内容と時間配分は適正なものでしたか。	⑤	④	③	②	①	①
設問 9 教員は学生の質問に丁寧に答えていましたか。	⑤	④	③	②	①	①
設問 10 この授業を受けるに当たって十分な予習や復習を行いましたか。	⑤	④	③	②	①	①
設問 11 この授業を受けるに当たって自分から文献を探すなどの努力をしましたか。	⑤	④	③	②	①	①
設問 12 この授業を受けることで分析能力や批判力がついたと思いますか。	⑤	④	③	②	①	①
設問 13 この授業は全般的に満足いくものでしたか。	⑤	④	③	②	①	①
設問 14 この授業は、今後の学習にとって有意義なものでしたか。	⑤	④	③	②	①	①
設問 15	⑤	④	③	②	①	①

